

登録コード:MH642200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	高次脳機能障害学【理作20M以降】 higher brain dysfunction			
担当教員	杉山 暢宏			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻，作業療法学専攻 / 2年生 後期 金曜・2 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 1 1 講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		神経心理学の基本ならびに高次脳機能障害全般について理解する。	
	MH25カリ・保健・理学，MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し，さまざまな状況で活用できる。		神経心理学の基本ならびに高次脳機能障害全般について理解する。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して，地域・国際的な視点から，科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と，課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		リハビリテーション実践における様々な高次脳機能障害の課題に対応していくことができる。	
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	神経心理学の基本を学び，高次脳機能障害全般について学習する。大脳機能の障害に基づく多彩な認知・感覚・行動障害の症状と病態を理解する。また，脳画像診断学の基礎や脳卒中の予防についても学習する。 本授業は1年次に学んだ「生理学」「中枢神経解剖学」および2年次前期の「内科学」「薬理学」「精神医学Ⅰ」の知識を前提とします。また2年次後期の「臨床神経学」「運動学習理論（理学）」「精神医学Ⅱ（作業）」とも密接に関連します。さらに，3年次で学ぶ「認知障害治療学Ⅰ（作業）」「認知障害治療学Ⅱ（作業）」の基礎となるものです。 本授業は担当教員の医療機関や行政機関における精神科医としての実務経験を活かして講義を行います。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	第 1回（10月 2日）導入（教科書 第1章） 第 2回（10月 9日）高次脳機能障害の理解のための中枢神経解剖，脳画像の理解（教科書 第1章） 第 3回（10月16日）失語1（教科書 第2章） 第 4回（10月23日）失語2 第 5回（10月30日）失行1（教科書 第3章） 第 6回（11月 6日）失行2 第 7回（11月20日）失認（教科書 第4章） 第 8回（11月27日）復習 失語，失行，失認（教科書 第2章，第3章，第4章）<中間試験> 第 9回（12月 4日）左半側空間無視と右半球症状1（教科書 第5章） 第10回（12月11日）左半側空間無視と右半球症状2 第11回（12月18日）遂行機能障害と前頭葉1（教科書 第6章） 第12回（12月25日）遂行機能障害と前頭葉2 第13回（ 1月 8日）記憶障害と健忘症候群1（教科書 第6章，第7章） 第14回（ 1月15日）記憶障害と健忘症候群2 第15回（ 1月22日）総合討議とまとめ 授業アンケート 第16回（ 1月29日）<期末試験>			
授業の進め方	本授業は，eALPSに事前にアップロードするパワーポイントスライドの講義資料，その他参考資料および板書に基づいて進めます。 能動学習による理解の深化を目指すために，グループワークや授業中の質疑応答にも重きを置いて，授業を展開していきます。 授業は予習（事前学習）を前提としています．事前に教科書の該当箇所をしっかりと予習して，自分なりに理解してくるようになしてください。			
テキスト，教材，参考書	教科書： 石合純夫著『高次脳機能障害学第3版』医歯薬出版 参考書： 1 山鳥重著『神経心理学入門』医学書院 2 本田哲三 編集『高次脳機能障害のリハビリテーション実践的アプローチ第3版』医学書院 3 モリ タイシ（著），横幕 智裕（原著）『ラジエーションハウス 全19巻』（ヤングジャンプコミックス）			

テキスト，教材，参考書	4 草水敏(原作)，恵三朗(漫画)『フラジャイル 全30巻』(アフタヌーンKC)講談社 これらの参考書は，医学部図書館および杉山研究室にありますので，積極的に閲覧・参照するようにしてください。
成績評価の方法	中間試験（11月27日），期末試験（1月29日）を課す。いずれも筆記試験で行い，それぞれ50点満点とし，合計したものを最終評点とする。最終評点が60％に達しない場合に限り，積極性，適宜行う確認小テストなどを総合的に判断し，期末試験の得点に加点するが，この場合，最終評点は60％を越えない。総合的な加点を行っても評点が60％に達しない場合は「不可」とする。 中間試験と期末試験では，高次脳機能障害の理論，脳画像，症状，評価法，予防の基本事項の理解度を確認する。
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある（可）」，応用問題が解ければ「やや上にある（良）」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」，例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」 これらは中間試験および期末試験において 90 - 100点：秀 80 - 89点：優 70 - 79点：良 60 - 69点：可 におよそ相当する。
事前事後学習の内容	授業計画で示した毎回の授業内容に，教科書で予習・復習しておくべき箇所を指定する。 【事前学習について】 毎回，授業の終わりに，次回までに調べてくるべき予習（事前学習）内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回，授業のはじめに，前回の授業の要点について復習（事後学習）してきた内容や，能動学習として学んできた内容についての質問を行いますので，自分なりの言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んで下さい。 本授業の単位修得には，45時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 事前・事後の自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して，事前・事後学習に意欲的に取り組んで下さい。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	高次脳機能障害学は本科目以外に，3年次前期「認知障害治療学Ⅰ」および3年次後期『認知障害治療学Ⅱ』においてさらに発展的な学習を行います。 まだ臨床現場に出る機会が少ない段階かと思いますが，できるだけ具体的な患者さんのイメージが持てるように工夫して講義をしたいと思います。 質問への対応：オフィスアワー参照 オフィスアワー：授業がある金曜日12:10-13:00 保健学科南校舎2階杉山研究室にて対応します。 連絡、相談など：保健学科 作業療法学専攻 杉山暢宏 (nsugi@shinshu-u.ac.jp)